

第 300 回

エフエム石川放送番組審議会議事録

議 題

業務概要の報告

試聴と質疑・意見交換

令和 2 年 1 2 月 2 5 日

株式会社エフエム石川

## 第 300 回エフエム石川放送番組審議会

1. 開催年月日 令和 2 年 12 月 25 日
2. 開催場所 IT プラザ武蔵 5F 研修室 3
3. 委員の出席  
総委員数 7 名  
出席委員数 7 名

出席委員の氏名（50音順）

委員長 : 柳澤良一

副委員長 : 清水克弥

委員 : 金井辰樹、工藤彩子、久保 勉、平木孝志、宮川昌江

放送事業者側出席者氏名

代表取締役社長 平田 信也

放送担当部長 安地 昭博

#### 4. 議題

業務概要の報告

番組試聴と質疑・意見交換

## 議事内容

### [業務概要の報告]

番組としては、民放連と radiko との合同企画でジャニーズ事務所所属の 5 人組アイドルグループ「HiHi Jets (ハイハイジェット)」が出演した青春ラジオ小説「オートリバーズ」が全民放ラジオ局で放送されたことが報告されました。

また、イベントとしては 10 月 24 日に通常より参加人数を 4 割削減して「スキルアップおさかな料理教室 Part2」を開催。12 月 13 日には「香林坊大和プレゼント ハローファイブブライダルプロジェクト ラブハピ婚活パーティー」を開催し、4 組のカップルが成立したことが報告されました。

また、民放ラジオ 99 社全てが radiko に対応したことを記念して 9 月から 11 月にわたって radiko と民放ラジオ全局で『ラジオで、日本を元気に！』をテーマに Twitter を利用した「# (ハッシュタグ) ラジオバトン 99 (きゅうじゅうきゅう)」というプレゼント企画を実施したことが報告されました。

### [番組の試聴と質疑・意見交換]

#### 【試聴番組】

番組タイトル：観光特別番組『KIKI-TABI スピンオフ ～アバター井門くんが行く！秋の山陰、大山の魅力大搜索 SP』

放送日時：2020 年 11 月 1 日(日) 19:00～19:55

出演：井門宗之(JFN パーソナリティ)

ドーキンズ英里奈 (タレント、モデル)

大坂 愛(FM山陰アナウンサー)

企画・制作：JFN

#### 【番組内容】

新型コロナの感染拡大防止から番組制作の体制が取れず 6 月で一旦休止になっている旅番組「KIKI-TABI(ききたび)」のスピンオフ企画。取材陣は現地へ行けないため、パーソナリティの井門宗之の人形を「アバター井門」として現地へ派遣してFM山陰のスタッフと旅をした模様を東京のスタジオでモニターを覗きながら番組を進行しました。コロナ時代の取り組みの一つとして、新しいリモート旅ラジオ番組に挑戦しました。

※「アバター井門くん」は、スマホに”井門人形”をかぶせたもの。アバターとは自身の分身となるキャラクターのこと。

### ■工藤委員

映像のないラジオの旅番組というのは、かなり難しい挑戦だな、と感じました。現地にいる女性パーソナリティの表現だけ（「すごい」が多すぎると感じました）では、臨場感がなく映像が浮かびません。「アバター」も扱い方にまだまだ課題があると感じます。女性パーソナリティを介するのではなく、アバターと現地の人との進行で進めてみたらどうだったのでしょうか。また、他県出身のアナウンサーなど地元以外の人に敢えて伝えてもらう方がよかったのではないのでしょうか。状況を説明する人には立体感のある言葉を使って頂いた方が親しみが湧きます。大山はテーマとしては重かったと思います。砂丘など初級者向けの観光地でも良かったのではないのでしょうか。

### ■金井委員

映像のない旅番組という難しさは勿論あるものの、それでも18年続いたということはリスナーをそれなりに惹きつけてきたのだと思う。「アバター」というワンクッションがあり、更に現地の女性パーソナリティがいることで結果的にツークッションになっていて伝わりづらくなってしまったのではないのでしょうか。大山をあまり知らない人はいるはずなので、山の基礎情報（漢字表記やどこにあるのかなど）があったほうが良いと思いました。コロナ禍において山陰を選んだ理由が知りたいです。感染状況を考慮してなのではないのでしょうか。旅番組であればアクセス情報が必要だと思いますが、これも無かったのはコロナ禍だからなのではないのでしょうか。旅番組の割には、構造がいびつなような気がしました。

### ■久保委員

映像が無いものをどうやってレポートするかは、ラジオ番組の手腕が問われると思いました。「景色が隠し味」が番組のコンセプトということでしたが、景色が見えないということで、かえって番組制作のハードルが高くなっているように思います。この町ならではの「音」の紹介でトゥクトゥクが紹介されましたが、それが大山を代表する音なのか疑問に感じました。また、木の紹介や食リポもありましたが、あまりピンときませんでした。全体的にリスナーの想像力やリポーターの力量が問われる番組なので、サラッと聴けません。せっかく鳥取県を紹介するのであれば、もっと地域色を出せるように思い切って地元の民謡を流すなどしても良かったのではないのでしょうか。ラジオこそ究極のリモート媒体なので、無理をせずいつも通りの番組を流す方が良いのではないかと感じます。それでも新しい形に挑戦したい場合は、リアルタイムでスマホで見られる画像を載せるなどしてはどうでしょうか。

#### ■宮川委員

トゥクトゥクやソフトクリームなどは大山の観光情報としては内容が貧弱に感じましたが、説明としては分かり易かったです。伝えてもらわないと分からないこともあるので、そこは良いと感じました。ただ、初めて大山を知る人には感動できる内容ではなかったと思います。物産がとても多かったので自然の説明がもっとほしいところです。選曲は番組の雰囲気合っていたと思います。

#### ■平木委員

タイトルを見て「秋の山陰」「大山」はラジオで伝えるのは難しいのではと予想し、だからこそ期待しましたが、終始秋が感じられませんでした。女性リポーターは表現力が乏しいように感じましたので、魅力を伝えるための緻密な演出が必要だと思いました。スタジオで食の名物の話をしている場面で、山陰なのに「松葉ガニ」と言わず、「ズワイ（ガニ）」と表現していたのが意外でした。

#### ■清水副委員長

制作としては勇気あるチャレンジだと思いました。現場で取材する人の語彙力や知識が求められるものだと思いますが、今回は「綺麗」や「可愛い」などの表現が多くて、その良さが伝わってきませんでした。そのあとで地元の方の説明があったのでなんとなくイメージすることはできました。カンジキで歩けるという情報については、良かったと感じました。地元の食をスタジオで目の前に置いて話をしたのは、私は良かったと思います。また、移住してきた方に「何に魅力を感じて移住してきたか」をお聞きするのもいいと思います。リスナーの世代によって受け止め方は異なると思います。

#### ■柳澤委員長

テレビと同じような構成の番組ではなく、ラジオ独自の「音」を聴かせて「音の風景」のような旅番組をつくれれば良いのではないのでしょうか。「おいしい」や「すごい」という言葉をいくら使っても聴いている方にはなかなか伝わってきません。食べている方へのインタビューや、動物や訪れる人の生の声や音が聞こえるとラジオ独自の形になるのではないのでしょうか。全体としては、映像が浮かばない・臨場感が無いといった意見が多かったと思います。

[審議会の答申、または改善意見に対してとった措置]

制作者に内容を伝達

[議事の概要を公表する場合の日時や内容]

第 300 回番組審議会の議事概要の公表

令和 3 年 1 月 9 日(土) 19:55 ~ 20:00 に放送

掲載書面の備え置き、及びインターネット・ホームページへの掲載